H３０．６．１

保護者各位

黒野こども園

6がつ　ももぐみだより

桃組になり早２か月が経ちました。私自身保育教諭を始めて３年目ということもあり、自分で保育の内容を考えたり実際に進めたりしていく機会が増えてきました。「自分で考えた活動を子ども達は楽しんでくれるのか、何を学んでくれるのか」毎日の自分の保育に自問自答を繰り返しているうちに、「保育を楽しむ」ということを忘れかけていることに気づかされました。先日小学校の参観に行きました。B 君はこども園にいる時に生活面や人間関係で苦労していたこともあり、参観に向かう道中はとても心配になりました。「ちゃんと登校できているのか」「仲のいい子がいるのか」と不安がいっぱいでした。

しかし、教室に入ると不安だった事が嘘のように、挙手をしたり隣の席の子と楽しそうに話したりする B 君の姿がありました。授業が終わると B 君は私を見つけるなり駆け寄ってきて、「ひろ先生友達出来たよ！」と笑顔いっぱいで話してくれました。全く新しい環境で、B 君はとても明るく頑張っていました。そんな B 君をみているうちに、「２年間 B 君の担任として一生懸命『保育を楽しんできたこと』がこの姿につながったんじゃないか」ともう一度保育教諭としての自信を取り戻すことができました。B 君が学校へ行っても伸び伸びと生活している姿を通して、「子どもといかに楽しむことが大事か」という原点に戻れました。今年も桃組の子ども達と思い切り楽しく生活していきたいと思います。今後共どうぞよろしくお願いいたします。（文責：西垣）

≪子どもが安心して元気に生活できるために保育教諭が子どもにすること≫

＊簡単なルールのある遊びやリズム遊びなど、保育者や友達と一緒に楽しめる活動を取り入れます。
＊それぞれが自分の思いを出せるよう仲立ちをしながら、友達と同じ場での遊びを楽しむことができるようにします。
＊雨の日が多く室内で過ごす時間も増えるので、季節の自然に親しめる製作や、広い部屋を使って体を動かして遊ぶ活動などを取り入れ、楽しく過ごせるような工夫をします。
＊気温が高い日が増えてくるので、水分補給がこまめに出来るよう声をかけます。
＊汗をかいたり、泥遊びをしたりして着替えが必要なときに、やり方を知らせたり手助けをしたりして、子ども自身が気持ちよさを感じ自分から取り組めるようにします。

≪子どもの遊びや教育的活動≫

＊水・砂・土・泥などに触れて遊ぶ中で、その感触を十分に楽しみます。
＊雨が降る様子を見たり、雨上がりに戸外で遊んだりする中で、梅雨期の自然にふれて楽しみます。
＊遊びの中で自分の思いを言葉や動きで表現しようとします。
＊気に入った遊具や遊びに繰り返し関わろうとし、やりたい遊びを楽しみます。
＊水分補給や着替えを自分で行おうとします。

≪お願い≫

・記名のない物や衣服が目立ちます。もう１度すべての物に記名がしてあるか確認してください。
・泥遊びをする機会が増えてきます。着替えを多めに持たせてください。また汚れ着スモックを使用した際にはできるだけ早く園に持ってきてください。
・黄かばんにキーホルダーをたくさん付けている子がいます。キーホルダーは大きすぎない物を一人一つまでという約束をお子さんと確認して持ってきてください。
・園外散歩など出掛けたりもするので、水筒に必ずひもをつけてきてください。
・ハンカチ・ティッシュを毎日持たせてください。

≪エピソード≫

桃３組では季節（春）についての学習遊びをしています。クラスの中にいちご農園を経営している家庭の方がみえることもあり、今回はいちご狩りに出掛けることにしました。出掛ける前に、写真を見せながらいちごがどのようにして出来るのか知る機会をつくりました。「いちごは花からできるんだね」「ミツバチが花に魔法をかけるといちごになるんだ」とわくわくした気持ちをいっぱいにしていちご狩りに出掛けました。「真っ赤ないちごを取ってね」「1 人５個までね」と説明を受けビニールハウスの中に入ると、写真で見たことのある、ミツバチが入っている大きな箱がありました。「驚かさないようにそーっと見てみようか」とゆっくり近づいてみました。ミツバチには大事な役割があることを知っていたからか、驚いて逃げ出す子は誰もおらず、「あっ！ミツバチさんでてきた」「お仕事頑張ってね」「可愛いね」とミツバチの仕事の邪魔をしないように小さな声で会話する子ども達の姿がとても純粋で可愛らしかったです。いざいちご狩りが始まると、「こんなに大きないちご取れたよ」とすぐに取って教えてくれる子もいれば、「真っ赤ないちごが見つからないんだけど」とお気に入りのいちごが見つからずなかなか決められない子など、いちご探しに集中する子ども達。「５個食べたんだけど、また５個取ってきていい？」とまだまだ満足できない中、食べたい気持ちを抑えて今度は周辺の散歩に出掛けました。近くで高速道路の建設をしている場所を見つけると、「ショベルカーがある」「この看板にはなんて書いてあるの？」と興味津々の子ども達。交通整備をしていた方がいらっしゃったので、子ども達に仕事の話をしてくださいとお願いすると快諾してくださり、子ども達に仕事の説明をしてくれました。「赤の旗は止まらないといけないんだね」「こんなに暑い中大変そうだね」と「交通」や「職業」についての興味も広がった所で園に帰ってきました。